



2022年5月13日

各位

会社名 ワシントンホテル株式会社
代表者名 代表取締役社長 内田 和男
(コード番号:4691 東証スタンダード市場、名証メイン市場)
問合せ先 取締役経理財務部部長 森 良一
(TEL. 052-745-9036)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年3月期（2021年4月1日～2022年3月31日）の個別業績と前期実績値に下記の通り差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 個別業績と前期実績値との差異（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 4,666	百万円 △6,632	百万円 △6,839	百万円 △7,518	円 銭 △621.36
当期実績 (B)	8,547	△3,243	△3,108	△3,261	△270.50
増減額 (B-A)	3,881	3,389	3,730	4,257	—
増減率 (%)	83.2	—	—	—	—

※2021年3月期は連結業績を開示しておりましたが、2022年3月期第1四半期会計期間より非連結決算に移行しております。前期実績 (A) は個別業績を記載しております。

2. 差異の理由

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなか、新規感染者数の増減に呼応するように景気は後退と回復を繰り返し厳しい状況が続きましたが、昨年秋口から年末にかけて一時的に需要が回復したことや、新型コロナウイルス感染症の軽症者等の療養施設としての一棟貸しを14事業所で行ったことによる売上34億円等により、当事業年度の客室稼働率は、35.5%（前会計年度比+15.8ポイント増）となり、売上高は前期実績を上回る結果となりました。

各段階損失につきましては、売上高の増加が前期実績との差異の主な要因となりますが、経費面では、前期より引き続き、役員報酬の減額、人員配置の見直し等による人件費の削減に取り組んだほか、家賃・保守料といった固定費も交渉により減額いただくなど、支出の抑制に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症にかかる雇用調整助成金等の支給申請額157百万円を雇用調整助成金として、飲食店に対する営業時間短縮協力金等211百万円を感染拡大防止協力金受入額として営業外収益に計上し、当社の保有する固定資産に関する減損損失68百万円及び事業所閉鎖損失として53百万円を特別損失へ計上いたしました。

以上